

Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs

https://holdings.panasonic.jp/npo_summary.html

社会課題の解決に取り組む市民活動が持続的に発展していくためには、NPO/NGOの組織基盤強化が必要との考えのもと、2001年にPanasonic NPOサポートファンドを創設。NPO/NGOの事業活動への助成ではなく、組織基盤強化への助成にしばた珍しい助成プログラムである。

「環境・子ども・アフリカ」分野への助成プログラムを2018年度からはプログラム名を現プログラム名称に、助成テーマも刷新し、パナソニックグループ企業市民活動の重点テーマである「サステナブルな共生社会」の実現に向けた「貧困の解消」に取り組むNPO/NGOの組織基盤強化に助成している。

NPOを
強くする



ロックフェスティバルでのごみ分別活動などを行う環境NGO「ezorock」は、設立以来、20代の若者ボランティアを中心に活動を展開してきた。

だが、活動が本格化し、社会的な役割も拡大してくる中で、次第にボランティア組織の弱みが顕在化するようになった。彼らは、どんな組織の壁にぶつかり、どのように乗り越えたのか。

代表の草野竹史さんに、団体のターニングポイントを聞いた。



「ROCK THE FARM ~新琴似ふれあい農園~」での活動風景



「RISING SUN ROCK FESTIVAL」で活動する若者たち

ロックフェスのごみ分別、 オーガニックファーム、サイクルシェアリング

未来になう若者の声を届け、次世代に引き渡せる社会をつくる
環境NGO ezorock

ロックフェスティバルから生まれた「ezorock」

「50年後も野外で気持ちよく音楽を聞きたい」

そんなキャッチフレーズを掲げてスタートした「ezorock」。発足のきっかけは、2000年夏に北海道石狩で開催された「RISING SUN ROCK FESTIVAL」(以下RSR)だ。この会場で、東京の国際青年環境NGO「A SEED JAPAN」のメンバーがごみの分別を呼びかける啓発活動を行い、活動後、「北海道のフェスは北海道の人の手でやるべきだ」との言葉に共感した道内出身の20代の若者によって01年4月に設立された。ロックフェスティバルから生まれた、世界でも

ちょっと珍しいルーツをもつ環境NGOだ。「発足当初のキャンペーンは、ペットボトル5本集めてきたら、タワーレコードのノベルティをプレゼントするというもの。当時のロックフェスは「ポイ捨てがカッコイイ」という感覚もあって、会場にはたくさんのごみが落ちていた」と草野竹史代表。

北海道を世界に発信する

06年には、独自の事務局を構え、専任スタッフによる事務局を開設。A SEED JAPANと共に実施していたRSRの環境対策活動を単独で行うなど、本格的な活動を始めた。「それまでは年1回のロックフェスを中心に活動する環境サークルのよ

うなかたちで、北海道のことは北海道の人の手で……」と言いながら、ずっとA SEED JAPANの力を借りていた。参加スタッフも徐々に減ってくる中で、ある人に『もう、お前たちも終わりだな』と言われたことで初めて本気になれた」という。

現在は、「若者の声を社会に届けることで、次世代を意識した持続的な社会づくりを目指す」という団体ミッションのもと、RSRなどイベントでの環境対策活動のほか、オーガニックファームの運営(RSRで発生した生ごみを堆肥化して有機野菜を育て、再び翌年のRSRに食材として戻す循環体験プロジェクト)、FMラジオなどを使った環境情報の発信、さらには自転車車の共同利用を目指した「サイクルシェアリング

草野竹史さんが語る「ezorockのあの時」

突破口はSNSによる情報共有化、団体としての社会的な役割を自覚できた

「みんなで決める」は、 無責任文化になりやすい

僕たちが組織の課題を感じ始めたのは、事務局をつくり、本格的な活動を開始して間もない頃でした。「アースデイ」の事業を引き受けるなど、活動業務が広がり、大きくなる中で、活動資金の不足や問題があらわれ始めたんです。なかでも深刻だったのは、団体としての意思決定の問題でした。

というのも、ezorockは発足以来、ボランティア中心の組織として運営されてきたので、何かを行う際には、みんなで決めるという文化が強かったんです。「みんなで決める」と言う聞こえはいいのですが、逆に言えば、団体運営において誰も腹をくくっていない。プロジェクトを進めていても、誰が責任をもってやっているのかわからない状態で、本当に決めなければいけないことも次回も乗り越えになり、決めないままズルズルいく。問題があるとわかっていても、僕自身、志を同じくして集まった仲間に嫌われたくなくて、責任問題を切り出せなかった。そのうち、組織としてまったく前に進めなくなりました。

そんな時、07年にパナソニックの「NPOサポートファンド」に応募したのですが、審査のヒアリングを受けた時のことは今も忘れ



草野竹史さん

ません。団体の方向性やそれに至る計画、支援者拡大のためのマーケティングなど、さまざまなことを鋭く突っ込んで質問されて、ほとんど満足に答えられず、まさに「けちょんけちょん」の状態。その時は、単純に助成資金獲得しか頭になくて、ezorockはいつい何のために存在していて、どのようにして社会的な役割を果たしていくのかという根本的な問題に向き合えていなかったんですね。

翌08年(実施年度09年)に「団体ブランドの構築」をテーマに再チャレンジして、助成が決まった時には、組織の問題はもう待たなして。メンバーの間で、社会課題を解決する団体として成果を上げていきたいという考えと、みんなで仲良くやっていきたいという二つの対立軸が表面化し、活動していてもギクシャクして達成感が得られない状況でした。それで、助成期間前から組織改革委員会を立ち上げ、曖昧だった団体のミッション(使命)やビジョン(どんな社会を実現するのか)など、すべてを見直すための改革をスタートさせました。

でも、組織改革は、最初からつまづきました。今までみんなで決めていたところに、突然、意思決定の権限をもった委員会ができたため、若いボランティアの人たちとの対話がうまくいけなくなりました。そのうえ、改革推進のために行った合宿で、再び「みんなで決める」という結論に落ち着いてしまいました。

30本のメーリングリストを、 「ezorock SNS」一本に

そうした混迷の中で、一つの突破口となったのは、団体オリジナルのSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を導入したことでした。それまで組織の運営管理に

使用していたメーリングリストは活動の増加とともに30本ぐらいに分散化していたのですが、それを「ezorock SNS」一本に切り替えたことで、一気に情報のオープン化が進み、ezorockにかかわる誰もがさまざまな意思決定プロセスに参加できるようになったんです。その仕組みをベースに意見を集めて、一つのプロジェクトの開始から課題解決までのプロセスの流れを図に表して共有化できたことが、組織をステップアップさせる大きな転換点になりました。さらに、「環境活動を通じて、人が育つ仕組みがezorockである」という方向性を打ち出し、団体としての社会的な役割を明確化する大きな一歩を踏み出すことができました。やはり、助成を通じて、外部の人から客観的な立場で「問われる」という経験がとても重要だったと感じます。どういう方針のもと、どういった方向性や戦略で組織運営していくのか。内部だけの見方では、どうしても自分たちの居心地のよい方に流されてしまいますからね。

そして、助成終了後も、活動を通して自分たちはどんな社会を生み出したいのかと問い続けることで、ezorockのミッションは「環境問題の影響をダイレクトに受ける若者の声を社会に届ける」ことであり、ビジョンは「次世代を意識した社会づくり」であるというところにたどり着きました。

それは、たとえば、貧困問題が先進国と貧困国の所得格差、地域間ギャップの問題であるとするれば、環境問題は今の世代と未来の世代の環境格差、つまり時間軸間のギャップの問題だと考えたからです。だからこそ、ezorockは物事に時間軸の視点を加え、若者の声をできる限り社会や仕組みづくりに反映させて、彼らにとって望ましいと思える社会を次世代に引き渡していきたいと思っています。

porocle」、農園内で人と人のコミュニケーションを生み出す「ROCK THE FARM ~新琴似ふれあい農園~」など多岐にわたるプロジェクトを実施している。

スタッフは、常勤4名、ボランティア約40名。事務所内は若いスタッフの熱気であふれており、今年の4月には2階建て一軒家の事務所を開設し、若者が世代や業種の枠を越えたさまざまな人々と対話できる

コミュニティスペースも設置される。「昔から北海道は『自然1流、施設2流、サービス3流』』といわれ、ポテンシャルは高いのに、そこに住む私たちが活かしきれていない。持続的な社会づくりを目指す人々と若者をつなぐことで、どんどん新しい仕組みをつくり出して、北海道を世界に発信できる場所になりたい」

環境NGO ezorock
2001年につくられた青年層を中心とする環境団体。北海道最大級の野外ロックフェスティバル「RISING SUN ROCK FESTIVAL」における環境対策活動を中心に活動を展開。2006年より事業化し、現在では、北海道各地のイベントでの環境対策をはじめ、農業、交通、まちづくりなどさまざまな課題に対して、青年層のもつ「創造力」と「行動力」を生かした活動を展開している。
<http://www.ezorock.org/>

Panasonic